



2024年9月24日

ケイライン・ウインド・サービス株式会社

## グリーンイノベーション基金事業「低コスト施工技術（風車浮体設置）の開発」に係る 「浮体式洋上風力発電設備建設のための浮体曳航及び係留施工ガイドライン」発行 について

川崎汽船株式会社と川崎近海汽船株式会社の合併会社であるケイライン・ウインド・サービス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：蔵本輝紀）は、一般財団法人 日本海事協会（本部：東京都千代田区、会長：坂下 広朗）と連携して、「浮体式用洋上風力発電設備建設のための浮体曳航及び係留施工ガイドライン」を作成して参りましたが、この度、日本海事協会より当該ガイドラインが発行・公表されました。

なお、本件はグリーンイノベーション基金事業「低コスト施工技術（風車浮体設置）の開発」の一環として、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成を受けて研究開発を進めたものです。（注1）

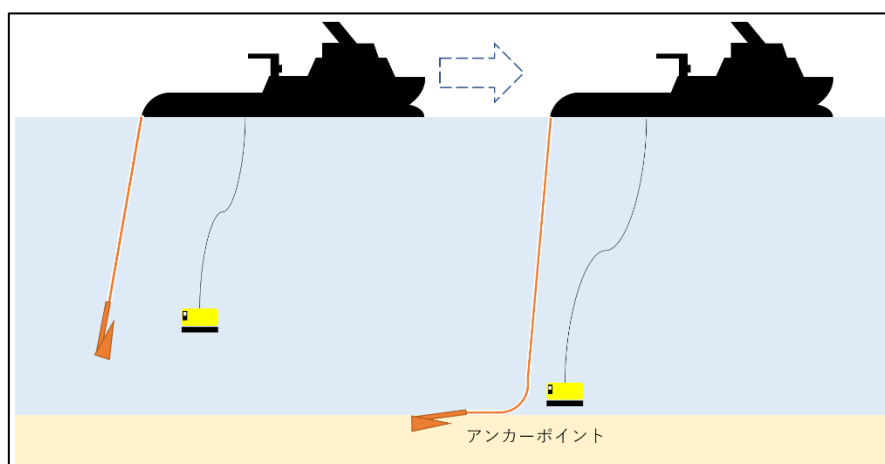


ガイドラインの表紙



2050年のカーボンニュートラル実現のためには、再生可能エネルギーである洋上風力発電の普及が期待されますが、遠浅海域に限られる我が国では、特に浮体式洋上風力発電への期待が高まっています。浮体式洋上風車はアンカー及び係留チェーン又は繊維ロープなどで構成される係留システムによって洋上設置される手法が一般的ですが、その一連の設置作業においては、船舶による浮体曳航や係留施工作業が欠かせません。当社は効率的な作業手法の研究開発と並行して、業界指針となり得るガイドラインの作成を日本海事協会と連携して進めて参りました。

当該ガイドラインの目的は、浮体式洋上風力発電設備の浮体曳航や係留施工技術を社会実装し、国際展開を促進することにあります。先行する海外事例や当社グループの実績を参考として、浮体式洋上風力発電設備の浮体曳航や係留施工を安全かつ効率的に計画・遂行するための、標準的な指針を独自に取り纏めています。実プロジェクトにおける作業計画・作業遂行の段階において、当該ガイドラインが安全で効率的なプロジェクト開発の一助になることを期待し、日本海事協会より発行・公表することを決定いたしました。



ガイドラインのサンプル図（アンカーの海底設置）

ケイライン・ウインド・サービスは、浮体式洋上風力発電設備の建設に寄与する研究開発と、それらの社会実装を通じて、浮体式洋上風力発電設備の大量導入、低コスト化に寄与することを目指すとともに、社会の低炭素・脱炭素化に貢献してまいります。

（注1） 共同プロジェクト「浮体式洋上風力発電の量産化及び低コスト化」のグリーンイノベーション基金事業「洋上風力発電の低コスト化プロジェクト」採択について

【グリーンイノベーション基金事業関連リリース】

2022年1月21日付：共同プロジェクト「浮体式洋上風力発電の量産化及び低コスト化」のグリーンイノベーション基金事業「洋上風力発電の低コスト化プロジェクト」採択について

[https://klinewind.jp/pdf/press\\_release\\_20220121.pdf](https://klinewind.jp/pdf/press_release_20220121.pdf)

2024年2月28日付：グリーンイノベーション基金事業「低コスト施工技術（風車浮体設置）の開発」に係る浮体式洋上風車向け専用船構想のAiP認証取得について

[https://klinewind.jp/pdf/press\\_release\\_20240228.pdf](https://klinewind.jp/pdf/press_release_20240228.pdf)